

今、語り継いでおきたいこと

## ふるさと語り部エッセイ

古事記には古代人の生き方や先人の知恵、生活習慣など、様々なことが描かれています。その古事記の編さんに大きな役割を果たした「稗田阿礼」は、古事記をとおして、現在に生きる我々に、たくさんのことを伝え残しました。

古事記編さんから1300年の時が流れた現在、世の中には情報が氾濫し、「語ること」「語り継ぐこと」の大切さが忘れられようとしています。

今、私たちが語り継いでおかななくてはならない大切なことを、子どもたちや後世の人たちへ伝えたいことを、ここに残しておきませんか。

「まだ見ぬ未来の子どもたちへ」「震災を経験して」「愛するあなたへ」。  
今、語りたいこと、語り継ぎたいこと。

平成24年2月6日より応募を開始しました「ふるさと語り部エッセイ」。応募締め切りの6月末までに、全国はもとより、海外からも数多くの作品をご応募いただき、その数は324通を数えました。

年代	応募数
10代	10
20代	23
30代	49
40代	53
50代	55
60代	56
70代	38
80代	25
90代	2
無記入	13

地域	応募数
北海道	8
東北・北陸	24
関東・東海	128
近畿	136
うち大和郡山市	35
中国・四国	12
九州	13
沖縄	1
海外	2
	324



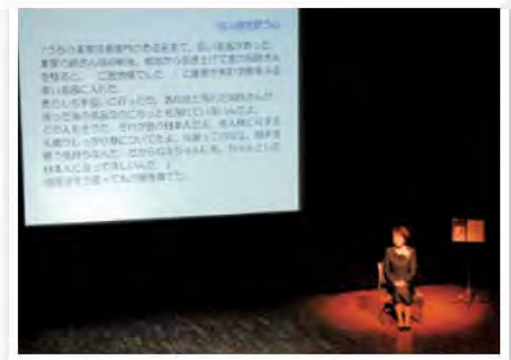
内容は、震災のこと、戦争体験、家族の愛、日本の文化風習など、様々な分野にわたりましたが、厳正な審査を行い、8作品の受賞作品を決定しました。子どもたちへ、後世の人たちへ語り継がれんことを願って・・・

### 「ふるさと語り部エッセイ」選考委員 (50音順)

- 武 智 功 (奈良新聞社取締役)  
司 茜 (詩人・日本ペンクラブ会員・第22回富田碎花賞受賞)  
藤 本 眞喜子 (賣太神社禰宜・奈良県童話連盟会長)  
松 村 武 (劇団主宰・脚本家・古事記1300年紀事業実行委員会特別顧問)  
山 口 義 房 (クリエイティブディレクター・コピーライター・古事記1300年紀事業実行委員会委員)  
上 田 清 (大和郡山市長)

## 「ふるさと語り部エッセイ」受賞作品

- 最優秀賞                   『<sup>よそさま</sup>他人様を思う心』   加藤 博子 (千葉県)
- 優秀賞                   『ハジチの手』       大城 洋子 (沖縄県)
- 『3人用の座席』      秋谷 正夫 (千葉県)
- 佳作                    『笑顔のぬくもり』   田中 奈美恵 (愛知県)
- 『女たちの赤まんま』 後藤 順 (岐阜県)
- 佳作 (阿礼特別賞)      『神在月の十神山で』 鷺野 亜紀 (島根県)
- 佳作 (語り部の里賞)   『いろごはん』       竹田 多恵子 (奈良県)
- 『生き続ける』       城田 由希子 (奈良県)



## 「ふるさと語り部エッセイ」表彰式

日時：平成24年11月12日(月) 13時30分～

場所：やまと郡山城ホール 小ホール

遠く千葉県よりお越しいただいた加藤さんに、賞状、副賞を授与しました。

最優秀賞

### よそさま 他人様を思う心

加藤 博子  
(千葉県)

「おばあちゃん、ただいま。おやつ何？」お勝手の引き戸をガラガラッと勢いよく開け、息せき切って飛び込んできた私に「ねえちゃん、裾風立てる人は出世しねえよ。」蒸しあがったばかりの枝豆を箸に取りながら祖母が静かに言った。「すぞかせ？」「ああ、ばたば

た<sup>おおきな</sup>音たてて無神経な<sup>振舞い</sup>マネするのは、だめだってこと。」「ふうん。」湯気が立ち昇る枝豆に私は早速手を伸ばした。「学校で廊下は走るなって言われるだろう。何でか解るかい？」「転ぶと危ないからだよ。」「それ<sup>ばかりではない</sup>じゃねえ。本読んでる人、話してる人、学校にはいろんな人がいるだろう。中には具合悪い人もいるかもしれねえ。他人様に気遣いしないでバタバタ走ってどうするね」「そうか。それが裾風か。」私は即座に納得した。

祖母は田舎のばあさんだったが、マナーに関しては一言ある人で、私に色々な事を教えてくれた。月に一度巣鴨のお地藏様に市が立つと、幼い私の手を引き、電車で小一時間の距離を参詣に出向いた。その道中も「ねえちゃん、人の多い所じゃ背中に目つけて歩くんだよ。急ぐ人の道塞ぎになっちゃいけねえ」「電車で立ってる時は、<sup>よそさま</sup>他人様の頭の上でいっかい声でしゃべっちゃいかん。」時に口うるさいと思うほどの指導があった。「なんでそんなに他人様を気にするの？」と問いかけると、祖母はこんな話をしてくれた。「うちの本家は長屋門のある<sup>なぬし</sup>名主で、広い風呂があった。本家の爺さんは終戦後、戦地から引き上げてきた兵隊さんを見ると、「ご苦労様でした。」と誰彼かまわず飯をふるまい風呂に入れた。あたしも手伝いに行ったが、あれほど汚れた兵隊さんが使った後の風呂なのにちっとも汚れていないんだよ。どの人もそうだ。それが昔の日本人だよ。他人様に対する礼儀がしっかり身についたよ。礼儀ってのはな、相手を思う気持ちなんだ。だからねえちゃんにも、ちゃんとした日本人になってほしいんだ。」祖母はそう言って私の頭を撫でた。

# 大和郡山の語り伝えたいふるさと民話

動画で配信中

その土地その土地に伝わってきた民話や伝説には、その時代に生きた人々の考え方や、くらしぶり、伝統、風習が記されています。大和郡山市にも、たくさんの民話があります、地域に語り継がれてきた伝説をボランティアらの手で掘り起こし、書籍にしたもの、絵本にしたものもあり、市立図書館などで見ることができます。

その中のひとつ、「こおりやま民話絵本の会」が作成した、「大和郡山の語り伝えたいふるさと民話」の原画（画像）を芝居風に動画（語り付き）にしたものを大和郡山市のホームページで紹介しています。

<http://www.city.yamatokoriyama.nara.jp/kankou/event/1300/002755.html>



## うしの宮



文・絵：坂本 佳代子  
きり絵：馬場 敏枝  
語り：中川 直子

## みそなめ地蔵



絵：坂本 佳代子  
文：荒井 恵子  
語り：大道 ラン

## 親子塚



絵：北城 卓雄  
文：川田 和恵  
語り：池田 加津子

## 語り継ぐ むかしむかしのはなし

### ●期間・場所

9月9日(日) 市立図書館2階 集会展示室  
『かぞえうた』『うみさちやまさち』  
(「古事記ざんまい」との共催)

10月28日(日) 奈良県立大和民俗公園古民家  
『三枚のお札』『塩吹き白』『サルとカニ』  
『弥山大神のたすけ』『国生み』  
(県立民俗博物館と共催で開催)

11月11日(日) 平和地区公民館 囲炉裏の部屋  
『大和のカエルと大阪のカエル』  
『おばあのがたり』『いなばの白うさぎ』

●概要 神話、大和の昔話、民話の語り。

●参加者数 3回 合計85名



～語りつぐ、おはなしの楽しさを子どもたちに～

## 子どもに語る お話入門養成講座

お話を覚え、語り、聞きあう実習を通して、おはなしの楽しさを体験し、主に子どもたちに語るお話について学びました。

- 対象：受講者20人
- 場所：市立図書館2階 集会展示室
- 日程：5月から平成25年2月までの8月・12月を除く  
第4木曜日 10時～12時
- 講師：花木 恵子（前大和郡山市立図書館長）

申し込み受付初日の午前中で、定員いっぱいとなったこの講座。  
全8回の講座で、おはなしの楽しみ方や伝え方を学びました。  
全講座修了後3月20日に、集大成となる発表会を開催しました。



## 古事記関連ブックフェア

- 期間 平成24年1月5日(木)～2月19日(日)  
9月6日(木)～10月1日(月)
- 場所 市立図書館1階展示コーナー
- 概要 古事記に関するさまざまな図書や絵本などの展示 (約150冊)

